

有明海及び八代海に係る大学等による調査研究に関する文献シート

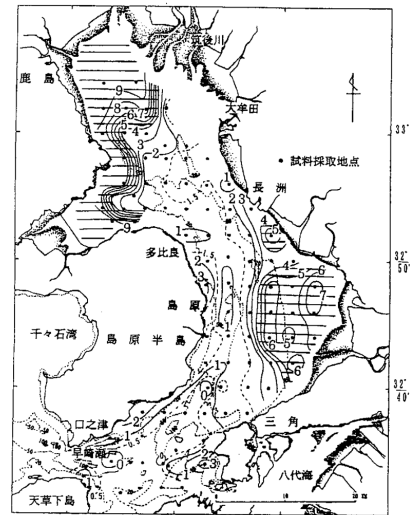
No.	H16 -11	タイトル	有明海における海底堆積物の粒度分布とCN組成
著者	近藤寛,東幹夫(長崎大 教育),西ノ首英之(長崎大 水産)		
キーワード	堆積物、粒度組成、中央粒子径値、C/N比		
出典	長崎大学教育学部紀要 自然科学 NO. 68; PAGE. 1-14	発行年	2003

<目的>

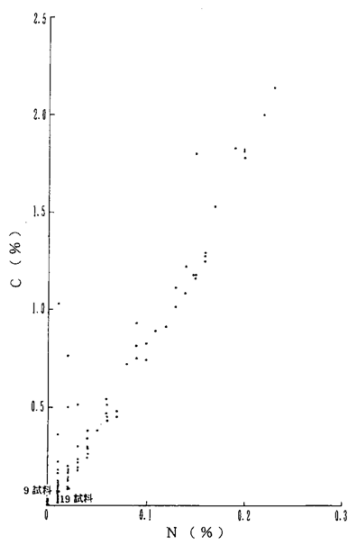
有明海全域から海底堆積物を採取し、粒度組成、CN組成等の分析を行った。

<結果>

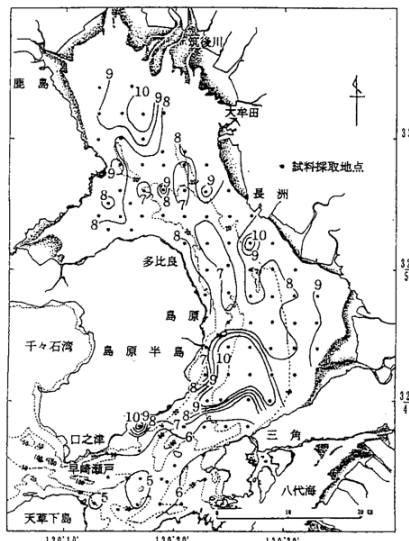
- ・ 堆積物は湾口部に砂礫、湾央部～湾奥部に極粗粒～中粒砂が分布する。諫早湾から湾奥部の北部、熊本県白川～緑川沖は泥が分布し一部は硫化水素臭を有する。
- ・ 中央粒径値 Md は湾口部が0～1 の粗粒子が多く、湾央部が1～2 の中粒砂が多い。諫早湾～湾奥部北部は9 以上の粘土となる。これらは鎌田(1967)と比べて細粒な値となっている(第3図)。
- ・ 堆積型は鎌田(1967)の方法により、Ⅰ, a, b, a, b, の型に区分し、鎌田(1967)と1997年実施調査結果との分布範囲を比較した。湾口部ではⅠ型が狭くなり、湾央部では a、b 型が、湾奥部ではⅠ型が広がった。これらの堆積型の変化は細粒化を示している(第5図)。
- ・ C,N量はともに泥質堆積物が多く、C/N比は粗粒な堆積物で小さく、細粒な堆積物では大きい。湾口～湾央部の堆積物はⅠ、a型と粗粒であるが、C/N比が大きい。その理由は不明である(第9,10図)。



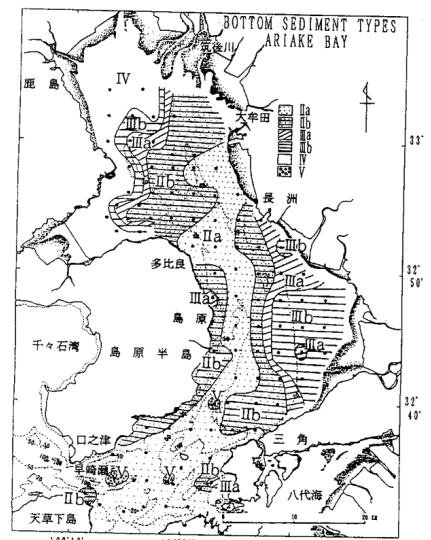
第3図 中央粒径値 Md φ の分布



第9図 有機炭素Cと有機窒素Nの関係



第10図 C/N比(炭素率)の分布



第5図 有明海における堆積型の分布